

「小平市長期総合計画策定のための市民アンケート調査報告書」の概要

1 市民アンケート調査の概要

| | |
|-----------|---------------------------------|
| 調査地域 | 小平市全域 |
| 調査対象 | 満 18 歳以上の市民（平成 30 年 7 月 31 日現在） |
| 調査方法 | 郵送配布、郵送回収 |
| 対象者数（配布数） | 2,000 人 |
| 抽出方法 | 住民基本台帳に基づく無作為抽出 |
| 有効回答数 | 914 件 |
| 有効回答率 | 45.7% |
| 実施期間 | 平成 30 年 8 月 27 日（月）～9 月 20 日（木） |

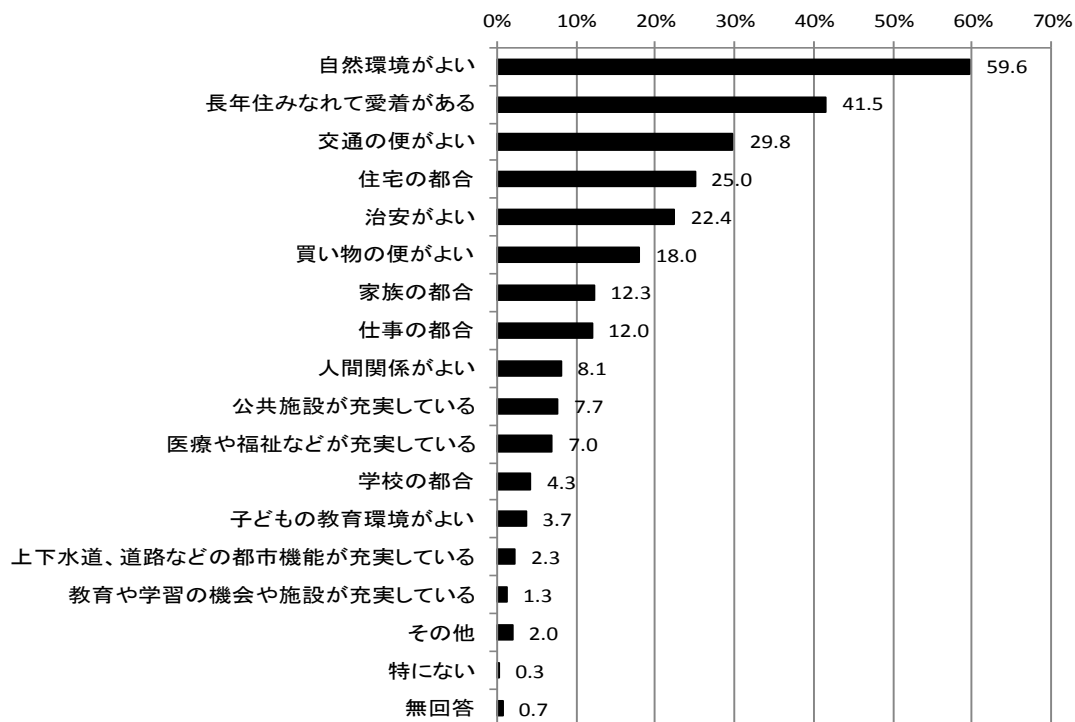
【アンケート調査報告書 構成】

- ・ アンケート調査の実施内容
- ・ 回答者属性
- ・ アンケート調査結果
 - I. 小平市での暮らしについて
 - II. “小平市らしさ” について
 - III. 市の取組に対する評価と今後への期待について
 - IV. 小平市での暮らしについて
 - V. 今後について
- ・ 付録
 - 1. 調査票
 - 2. 集計表

2 市民アンケート調査結果（抜粋）

I. 小平市での暮らしについて（P29～P43）

問4 あなたは、なぜ、小平市に住み続けたいと思いますか。（〇は3つまで）

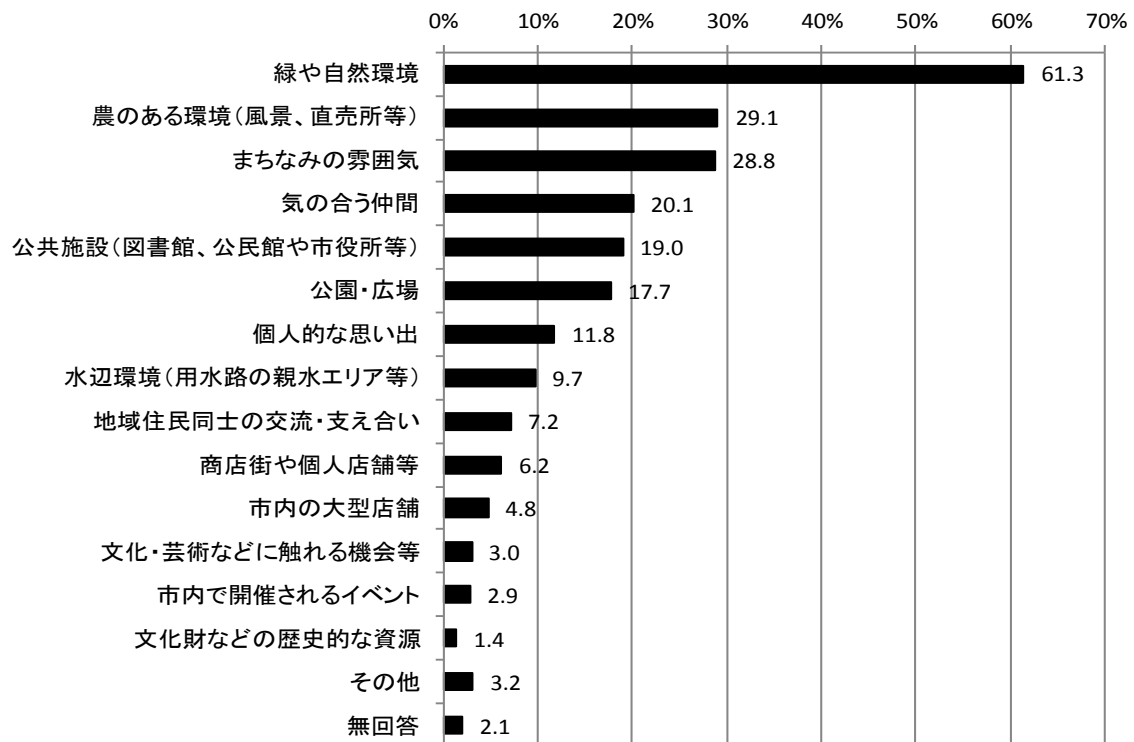


「I. 小平市での暮らしについて」の集計結果 概略

- 住み続けたい理由としては「自然環境がよい」がもっとも多い。これは、過去の世論調査においても同様の結果であり、小平市の特色といえる。
- 転居したい（住み続けたくない）理由としては「交通の便が悪い」がもっとも多い。これも、過去の世論調査においても同様の結果である。ただし、「転居したい」「できれば転居したい」と回答した人は、回答者全体のうち約11%と比較的少数であり、その点も考慮が必要である（「交通の便がよい」が住み続けたい理由の3位となっている）。

Ⅱ. “小平市らしさ”について (P44～P56)

問7 あなたが小平市に愛着を感じる理由や要素は次のうちどれですか。(〇は3つまで)

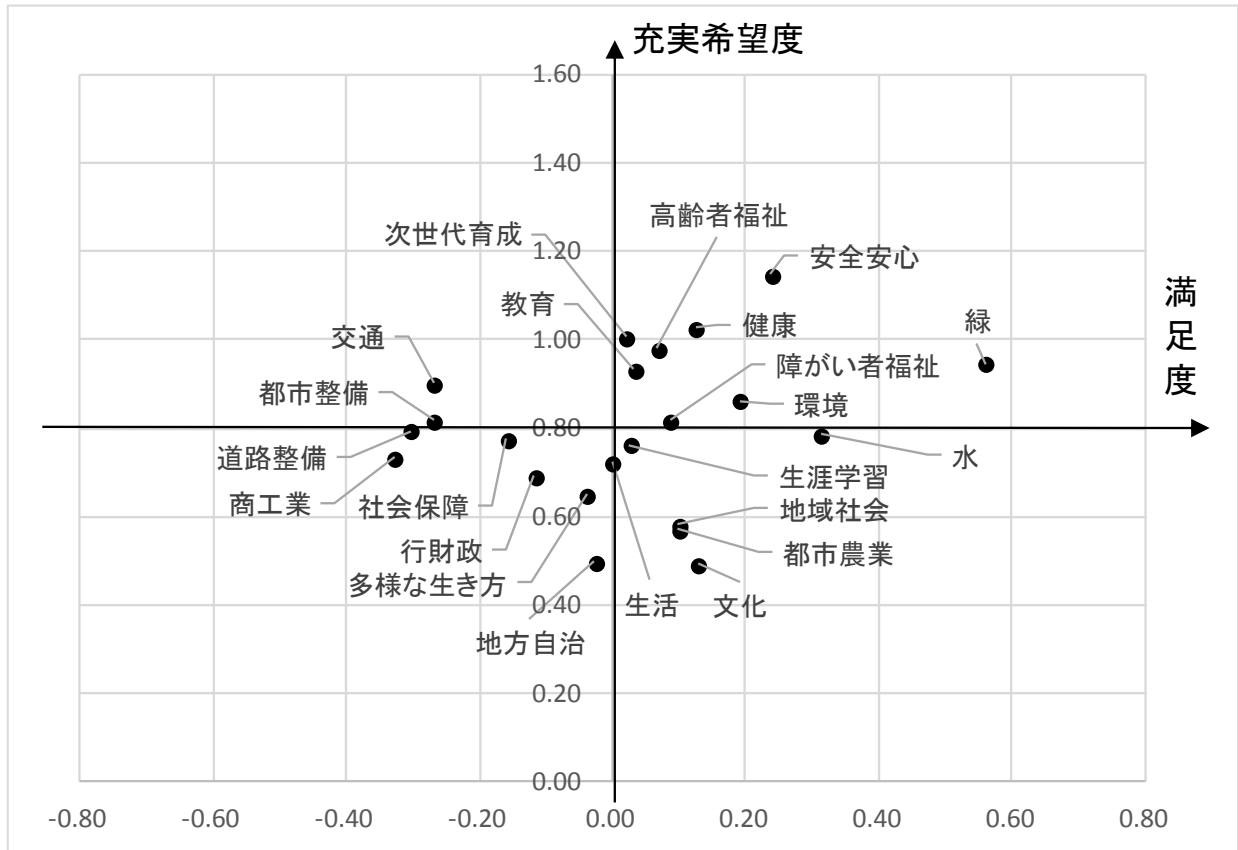


「Ⅱ. “小平市らしさ”について」の集計結果 概略

- 約 68.5%の回答者が小平市に愛着を感じており、愛着を感じる理由は「緑や自然環境」がもっとも多い。これは住み続けたい理由の1位が「自然環境がよい」であることとも符合する結果である。
- 愛着を感じる理由の2位は「農のある環境」であることから、自然が豊かであるということに加えて、農地が身近に存在する現状が市への愛着につながる要因となっていることが見て取れる。
- 今後、小平らしさの観点からさらに充実させていくとよい項目についても「緑や自然環境」がもっとも多かった。しかし、小平市に必ずしも愛着度を感じていない(「どちらともいえない」、「あまり愛着を感じていない」及び「愛着を感じていない」)約 30%の回答者に限ると「市内の大型店舗」がもっとも多くなっており、このことは、愛着度が低い理由の裏返しとも読み取ることができる。
- 愛着度の高い回答者は市の長所に主に目が向いており、愛着度の低い回答者は市の足りない部分に主に目が向いているものと推察される。

Ⅲ. 市の取組に対する評価と今後への期待について (P57～P90)

問 10 小平市のまちづくりに関する取組について、「現在の満足度」と「今後の充実希望度」をうかがいます。以下の各項目について、それぞれ当てはまるもの（今のお気持ちに最も近い選択肢）を1つずつ選び、番号を○で囲んでください。

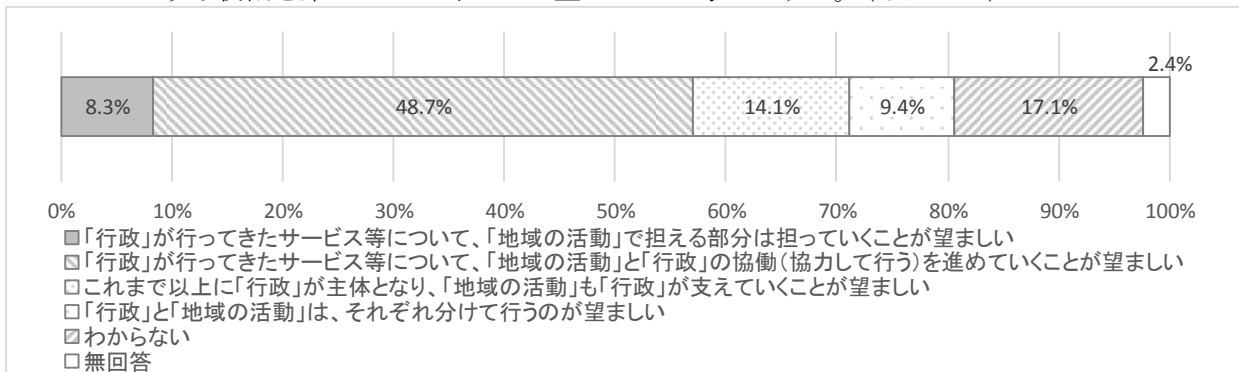


「Ⅲ. 市の取組に対する評価と今後への期待について」の集計結果概略

- 個別の施策に係る回答（問 10）については、水や緑、環境や安全安心に対しては満足度が比較的高い一方、商工業や道路整備、都市整備、交通に対しては満足度が比較的低い状況であった。
- 満足度と充実希望度と重ねてみると、次世代育成や教育、安全安心や高齢者福祉、健康といった日常生活の持続可能性を高める施策に対して、一定程度の満足はしているものの、さらなる充実が求められている。
- 個別の施策に係る回答（問 10）について定住意向度や愛着度（以下、「愛着等」という）別に見た場合には、愛着等が弱い群は、充実希望度において「商工業、交通、道路整備、都市整備」といった項目で愛着等が強い群を上回っていた。愛着等が弱い群は、愛着等が強い群と比較して、都市的要素の拡充をより強く求めていると推察される。

IV. 分野ごとの状況について (P91~P120)

問 14 あなたは、市民活動や地域活動（以下、両者を指して「地域の活動」とします）が、今後どのような役割を果たしていくことが望ましいと考えますか。（○は1つ）

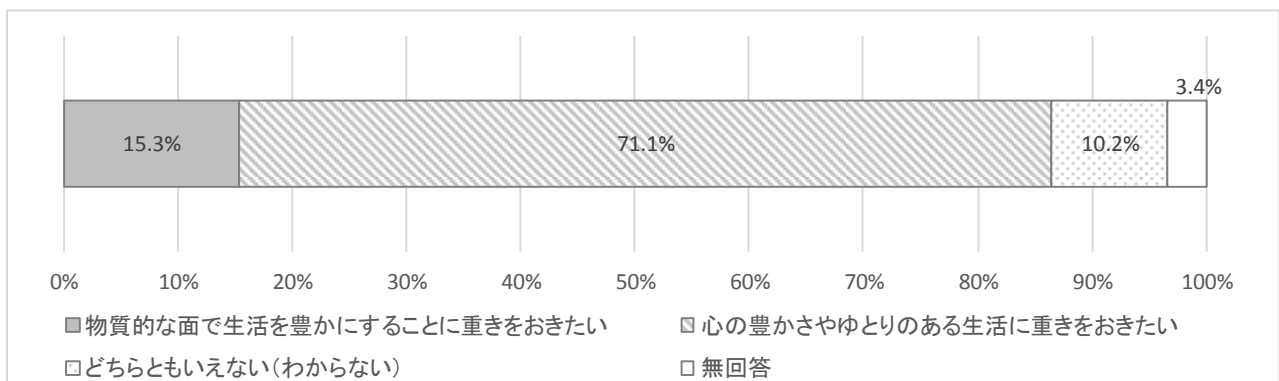


「IV. 小平市での暮らしについて」の集計結果概略

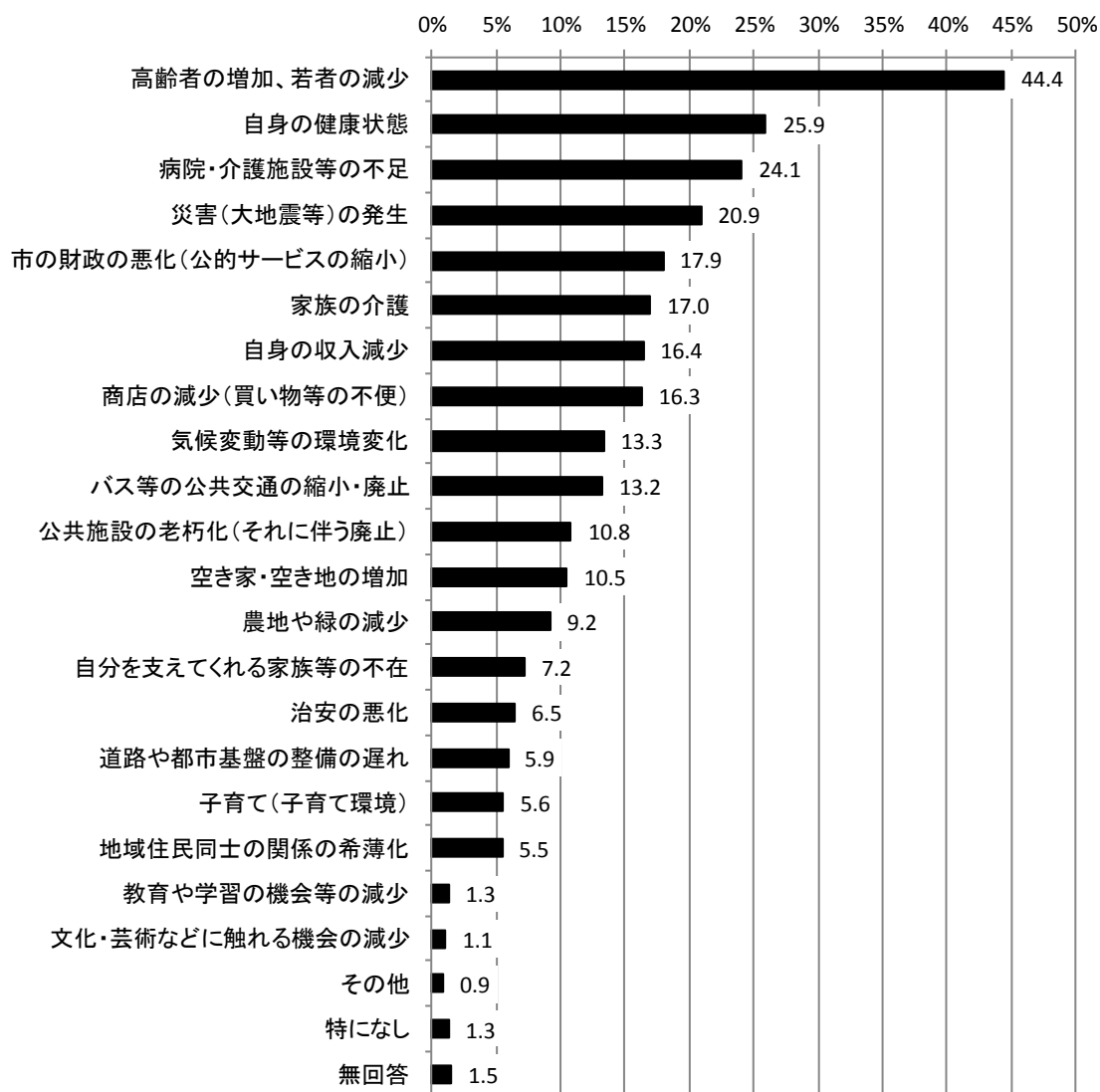
- 回答者の考える「地域」の定義（問 11）については、「自治会」が 41.2%でもっとも多く、以下「顔見知りの隣り近所」（33.7%）、「小学校の学区域」（31.7%）の順となった。
- 地域の活動（問 12 及び問 13）については、これまでに参加したことがあるものも、これから参加したいものも「地域におけるイベント（まつり等）」がもっとも多かった。
- 地域の活動の今後（問 14）については、「「行政」が行ってきたサービス等について、「地域の活動」と「行政」の協働（協力して行う）を進めていくことが望ましい」とする回答が全体の 48.7%を占め、もっとも多かった。
- 地域の役割（問 15~問 17）についての回答をみると、全般的な傾向として、急激な変化はあまり望まないながらも、地域での支え合いは望ましく考える傾向があると推察される。

V. 今後について (P121~P145)

問 22 10~15 年先の将来を考えたとき、あなたが生活に求めることは、以下の選択肢から選ぶとしたら、どれに近いですか。（○は1つ）



問 23 小平市は、平成 32（2020）年頃をピークに人口が減少する見込みであり、その中で、少子高齢化もさらに進展する等、これまでとは状況が変化する時期を迎えようとしています。10～15 年先の将来を考えたとき、あなたが不安に感じることは何ですか。（〇は 3 つまで）



「V. 今後について」の集計結果概略

- 今後重視する事項（問 22）については、「心の豊かさ」が 71.1%でもっとも多く、「物質的な面」の 15.3%を大きく引き離している。内閣府が実施している「国民生活の世論調査」では、直近の平成 30 年 6 月の調査結果で、「心の豊かさ」が 61.4%、「物質的な面」が 30.2%という結果が出ており、それと比較しても、小平市民は「心の豊かさ」を重視している傾向が見て取れる。
- 不安に感じる事項（問 23）については、「高齢者の増加、若者の減少」がもっとも多く、人口構成の変化は市民一般の不安事項であることが見て取れる。
- 施策の選択と集中（問 24）については、「効果を考慮し、これまでより多少、手厚くなる分野とそうでない分野を作っていく」とする回答が 52.4%でもっとも多かった。